

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 堺教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 10日		2025年 10月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団のプログラムが充実していることだと思います。	3歳から6歳のプログラムでは、発声、抑制のプログラム、質問、運動、5領域の中からの集団プログラムが行われています。集団であっても、個々の発達に応じた質問や集団内容を考え取り組んでいます。	様々なプログラムがありますが、まだ他にも適した集団のプログラムがあると思いますので、勉強会により、プログラムの幅を広げるように取り組んでいきます。
2	発達年齢等に応じて、時間や部屋がわかれていることです。	児童発達支援と放課後等デイサービスの支援室が別にあります。児童発達支援の中でも、午前は1歳児から3歳児の言語や身体の発達を主に支援し、午後は3歳から5歳の発達支援を行っています。そのため、体格差がなく安全に支援できます。	年齢や発達に応じて、保護者の方と相談して選んでいただいておりますが、クラスの内容をさらにわかりやすく提示し、より良い療育を受けていただけるようにしていきます。
3	総合的な支援が行える施設のプログラムや設備になっていることです。	低年齢の児童には集団の指示がわかりやすいように音楽(ピアノ)を取り入れ、運動、微細、SST、言語、認知発達に必要なプログラムを行っています。運動や音楽、認知等に必要な物もそろっています。	今後は、現在ある療育プログラムやグッズの中でも、より個々の児童に合った療育方法を話し合い、さらに深めて参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	食事の実際の支援がないことです。	お昼ご飯は保育園やご自宅とさせていただいている、栄養士が在籍していないので、提供は購入のおやつのみになっています。	スプーンやおはしなどは療育の中で行っており、流しそうめんのイベントで、おはしやフォークの実践をしています。スプーン支援の実践として、スプーンで食べるイベントもあれば良いと考えます。難しい場合は、親子参加も考えていきます。
2	児童発達支援では、外出や公園遊びが年に数回しかないことです。	低年齢の児童が遊びやすい公園が少し離れており、大通りをとおることが少し危ないように感じています。	避難訓練やハロウィンイベントの他にも、事前に外出予定をいれることも検討していきます。
3	保護者交流会が年1回、兄弟児の交流会が年4回ほどと少し少ないです。	毎年1回開催しておりますが、保護者様の集まりが多くないため、開催日程を悩んでいます。	日数を多くする、出席しやすい曜日や時間をアンケートしたりしながら調整していきます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら堺教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 10日		2025年 10月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	宿題などの机上課題、個々の余暇、集団活動とメリハリをつけながら、個々に寄り添い支援を心掛けていることです。	一人ひとりの興味・得意・苦手を丁寧に把握し、それぞれの特性に応じた明確で具体的な個別課題を毎回準備しています。課題は無理のないスモールステップで設定し、小さな成功体験を積み重ねられるよう配慮することで、段階的な目標達成へとつなげます。ご本人が自信を持って取り組める環境を整え、安心してチャレンジできる時間を大切にしています。平日の放課後だけでなく、土曜日・祝日・学校長期休業時には多様な特別プログラムを実施し、児童が幅広い経験を積めるよう工夫しています。季節イベント(クリスマス、夏祭り、ハロウィンなど)は、行事の楽しさを味わいながら社会的ルールや役割分担を学べる機会として計画的に取り入れています。また、屋外での活動(公園での遊びや運動)や屋内での学び(博物館見学やワークショップ)、地域行事(福祉秋祭りへの参加など)を通じて、実社会での経験を広げることを重視しています。これらの活動は単に「楽しむ」だけでなく、社会性の育成、集団でのやり取り、感覚調整、公共マナーの学習などを意図的に盛り込んでいます。安全面の配慮はもちろん、児童が「やってみたい」と思える活動の企画を意識しています。	日々の活動においては、個別課題の質と内容の充実に一層力を入れていきます。ご本人の特性や発達段階、興味・関心、得意・不得意の傾向を丁寧に観察し、達成感を感じながら無理なくステップアップできるよう、一人ひとりに合わせた課題設定を行っています。具体的には、課題の難易度や提示方法、支援者の関わり方を細かく調整し、理解しやすく、取り組みやすい形で提供していきます。
2	職員間での情報共有し、チームとして一貫した支援を行うことができています。定期的な会議や振り返りを通して支援内容を見直し、より質の高い支援へとつなげています。	支援終わり、翌日出勤した方には日誌等だけでなく口頭でのフィードバックを心掛けています。	今後は、これまでの実践を基盤に、非常勤職員への伝達もスムーズにできるよう、支援体制の構築を目指します。
3	ボール遊びができる広さがあり、運動遊びやブロックなどの机上遊びと好きな遊びを選択できます。	ボール遊びや走るなどのスペースと、ブロックなどの遊びのスペースを視覚的にわかるように分けています。そのため、ボール遊びも楽しむことができ、またブロックやおままごとなどの遊びも安心して行うことができます。	運動遊びはボールを使った遊びがメインになっていますので、他にもみんなが楽しめるような遊びをたくさん提案して放課後に様々な経験ができるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	宿題や机上課題に取り組む環境について、子どもたちがより集中しやすく、落ち着いて学習できるような環境づくりが今後の課題です。	指導員が全体を見渡せる構造になっております。壁向きやグループの席を設けていますが、あとから通所される児童が勉強する際、遊びが始まっている可能性があります。	机上課題のサポート方法や時間の使い方などについて工夫していきたいと考えています。支援の質の向上や、チーム全体で一貫した関わりが深まるようにしていきます。
2	高学年の児童への支援時間、内容について難しいと感じています。	放課後の利用時間の短さも一つの課題です。特に小学生の利用では、下校時刻や通所時間の関係から、事業所で過ごせる時間が限られており、支援や活動に十分な時間を確保しにくい場合があります。	短い時間の中でも効果的に取り組めるように個別・集団などの支援内容や、子どもたちが安心して楽しみながら成長できる活動構成を工夫していきます。
3	地域の小学生との交流の機会は少ないと感じています。	事業所内や、大きな公園へのおでかけは多いが、近隣の公園や学校内で遊ぶことが少ないです。	地域の小学校へグラウンドの提供をお願いしてみたり、事業所として地域のお子様も来てもらえるイベントや取り組みが必要だと思っています。子どもたち一人ひとりの成長を大切に、家庭や学校、地域と協働しながら支援の質を高めていけるよう取り組んでまいります。